

1 この科目の構成について

教 科	地歴・公民科	科 目	日本史B	単 位	2単位
対象コース	美術コース	対象クラス	3年8、9組		
使用教科書	高校日本史B（山川出版社）				
使用副教材	ビジュアル版 日本史図録（山川出版社）、テキスト 二高の日本史				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	日本の歴史が、ひとり日本人の自発的・内発的な力によって形成されてきたのではなく、原始・古代・中世・近世においては中国・朝鮮との政治的・文化的関係のなかで、また近代史・現代史においては国際社会のなかで形成されてきたことを考えていきます。正しい知識や相対的な思考力を身に付け、「歴史をみる眼」を持つことによって、昨今の国際情勢の激変、それにともなう日米関係や国内の政治・経済・教育の変化、さらには地域社会の変化に対して、客観的な判断力を養ってほしいと思います。
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	①原始・古代史は、日本の歴史が主に中国・朝鮮との政治的・文化的関係を通して形成されてきたことを学びます。 ②中世史・近世史は、平安末期に誕生した在地領主制が、やがて集権的な織豊政権・徳川政権（幕藩領主制）へと変化していったことを学びます。 ③近代史は、後発資本主義国としての日本が歩んだ歴史を、対外戦争や議会政治、産業革命などと関連させて学びます。 ④現代史は、戦後の冷戦下で、アメリカの国際的な戦略のなかに位置づけられた日本の歴史を、政党政治や国民の民主化運動、高度経済成長などを中心に学びます。
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
(1) 学校	1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。 3) 重要語句の整理と理解を授業時間内にして欲しいです。
(2) 家庭	1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど） 3) 随時宿題を課すので、解答して提出すること。

3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	①定期考査：年4回の定期考査。 ②宿題：適宜、宿題を出します。正確に解答して提出すること。 ③授業への取り組み：積極的な発言、授業用テキストへのマーカーなど、基礎的な作業。
評価における定期考査の割合	
70%	

4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
(1) 関心・意欲・態度	歴史上の人物や出来事について関心を持って授業にのぞんでいるか。教科書・授業用テキストへの記入を確実にしているか。
(2) 思考・判断	アジアや欧米など世界史の中の日本史という視点で歴史をとらえているか。また、歴史的背景とともに歴史用語を捉えているか。
(3) 技能・表現	教科書や資料集の図版・史料の理解ができているか。
(4) 知識・理解	習得した歴史用語を使い、文字情報としての試験に対応できているか。

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知
1	4	3. 幕藩体制の成立	①徳川家康から家光にかけての3代将軍の期間で幕藩体制が確立したことを理解させる。 ②鎖国体制の成立過程を理解させる。	●		●	●
		4. 幕藩社会の構造	①町・村などの共同体が、近世社会の基本的な中間団体であることを理解させる。〈道德教育を実施〉	●	●	●	●
			【第1回考査】				
		第7章 幕藩体制の展開					
		1. 幕政の安定	①4代将軍家綱から7代将軍家継までの時期に、武断政治から文治主義に幕府の大名統制政策が転換していったことを理解させる。 ②将軍権威の維持と朝廷宥和政策の関連性を理解させる。		●	●	●
	5	2. 経済の発展	①農業や漁業技術の発展により生産力が格段にあがり、近世社会の経済的基盤を形成したことを理解させる。 ②交通・流通、株仲間などの商業組織、貨幣制度の整備により江戸時代の経済が安定期を迎えたことを理解させる。	●	●	●	●
		3. 元禄文化	①文治主義により儒学が幕府の保護を受けつつ発展したこと、その儒学思想の展開が様々な学問の発展に影響を与えたことを理解させる。 ②上方町人を中心に、元禄文学である浮世草子・人形浄瑠璃が隆盛を極めたことを理解させる。	●		●	●
		第8章 幕藩体制の動揺					
		1. 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	①享保の改革から天保の改革にいたる幕政改革を理解させる。 ②幕政改革の背景にある生産力の発展、剰余の成立とその収奪、商品経済の発展、地主制の進展、百姓一揆、三大飢饉を関連させて理解させる。 ③幕藩社会の転換期、動揺期とされる田沼時代に即応した文化・学問について理解させる	●	●	●	●
	6	2. 幕府の衰退と近代への道	①欧米列強の接近とそれに対する幕府の対応を理解させる。 ②天保の改革の失敗後の幕府権力の衰退について理解させる。 ③幕末の藩政改革に成功した薩長雄藩の台頭について理解させる。	●	●	●	●
		3. 化政文化	①寛政・天保の改革で弾圧を受けながら、化政文学の諸ジャンルが誕生していったことを理解させる。 ②国学、蘭学など実証的学問の成立、各藩の教育、安藤昌益の思想などを理解させる。	●	●	●	●
			【第2回考査】				
	第9章 近代国家の成立						
	1. 開国と幕府の滅亡	①日米和親条約と日米修好通商条約の内容と、その後の貿易について理解させる。 ②幕末の政局を、特に長州藩・薩摩藩の動向を中心に理解させる。	●	●	●	●	
	2. 明治維新	①幕府の滅亡から維新政府の成立過程を、廃藩置県・地租改正・徴兵令などに注目しながら理解させる。〈道德教育を実施〉 ②政府主導により殖産興業・文明開化が推進されていった過程を理解させる。	●	●	●	●	
	3. 立憲国家の成立	①征韓論争後の自由民権運動の流れと、それを抑圧する薩長藩閥政府の動向を理解させる。 ②明治憲法の制定と初期議会について、日清戦争と関連させながら理解させる。	●	●	●	●	
	4. 大陸政策の展開	①立憲政友会の成立にいたる藩閥政府と民党の接近について理解させる。 ②日露戦争およびその後の韓国併合と満州地域への進出過程を理解させる。	●	●	●	●	
	5. 近代産業の発展	①日清戦争と日露戦争を契機にして起こった産業革命について、軽工業・重工業を明確に区別して理解させる。 ②労働組合や社会主義政党の発展と、それに対する政府の弾圧政策を理解させる。	●	●	●	●	
2	8	6. 近代文化の発達	①日清戦争・日露戦争前後の国権論の伸長について理解させる。 ②教育の国家主義化の流れを段階的に理解させる。 ③明治文学・芸術の各分野について、当時の日本人の精神・思想の変化と関連させながら理解させる。〈道德教育を実施〉	●	●	●	●
		第10章 二つの世界大戦とアジア					
		1. 第一次世界大戦と日本	①第一次護憲運動や米騒動に果たした大衆運動、および原内閣の積極政策を理解させる。 ②第一次世界大戦を契機にした中国・ソ連への進出、大戦景気につ	●	●	●	●

3	1	第 11 章 現代の世界と日本 1. 占領下の改革と主権の回復	いて理解させる。							
			③ワシントン体制下の幣原協調外交について理解させる。	●	●	●	●			
			①第二次護憲運動以後の政党政治、「憲政の常道」について理解させる。	●	●	●	●			
			②大正デモクラシーを支えた思想・文化について理解させる。	●	●	●	●			
			③大正文学、特に反自然主義やプロレタリア文学について理解させる。	●	●	●	●			
			①大正時代以後の戦後恐慌・震災恐慌・金融恐慌について、段階的に理解させる。	●	●	●	●			
			②協調外交と強硬外交の変遷を、政党政治・軍部の動向と関連させながら理解させる。	●	●	●	●			
			【第3回考査】							
			①満州事変後の関東軍の暴走、および国内における国家改造運動、国際連盟脱退を関連させながら理解させる。	●	●	●	●			
			②世界恐慌後の高橋是清蔵相の積極財政について理解させる。	●	●	●	●			
			③二・二六事件後の陸軍の勢力拡大について理解させる。	●	●	●	●			
			①日中戦争後の中国への進出、総力戦、統制経済について理解させる。	●	●	●	●			
			②ドイツ・イタリアとの同盟とアメリカの経済制裁を関連させながら太平洋戦争の開始の背景を理解させる。	●	●	●	●			
③戦時下の国民生活の崩壊、アジア・太平洋地域への侵略の実態（従軍慰安婦、中国・朝鮮人の強制連行や徴兵制など）について理解させる。	●	●	●	●						
④沖縄戦、学徒出陣について理解させる。	●	●	●	●						
⑤広島・長崎への原爆投下について、連合国軍や国内の軍部の動向と関連させ、さらには戦後の日本と国際政治を見通して理解させる。〈道徳教育を実施〉	●	●	●	●						
10	9	2. 政党政治と大衆文化 3. 恐慌の時代 4. 軍部の台頭 5. 第二次世界大戦	①GHQの占領下での民主化・非軍国主義化、経済の混乱状況について理解させる。	●	●	●	●			
			②日本国憲法の制定過程とその意義について、アメリカの対アジア戦略やGHQの動向と関連させながら理解させる。	●	●	●	●			
			③冷戦の激化とアジアへの社会主義勢力の浸透、および占領政策の転換を関連させながら理解させる。	●	●	●	●			
			④吉田茂内閣のもとで主権回復・安保条約調印がなされた意味を理解させる。	●	●	●	●			
			【第4回考査】							
			⑤デタント、多極化という国際政治の変遷のなかで日本が歩んだ過程を理解させる。	●	●	●	●			
			⑥55年体制下での保守安定政権、日米同盟の確立と高度経済成長、沖縄復帰を関連させながら理解させる。	●	●	●	●			
			①アメリカ主導のIMF体制下で、日本が経済復興を遂げていった過程を理解させる。	●	●	●	●			
			②高度成長の功罪について、消費革命・エネルギー革命、四大公害訴訟を中心に理解させる。	●	●	●	●			
			12	2. 55年体制と高度経済成長	①ベトナム戦争によるアメリカ経済の悪化、ニクソン＝ショック後のIMF体制の崩壊、石油ショックなど国際経済の動向を理解させる。	●	●	●	●	
						②第1次石油危機を契機に安定成長に転じたことを理解させる。	●	●	●	●
						③田中角栄政権以後の日中関係、「小さな政府」化の動きを理解させる。	●	●	●	●
						④冷戦の終結と、それが国際政治や国内政治へ与えた影響について理解させる。	●	●	●	●
⑤55年体制の崩壊の背景を、自民党による長期安定政権による腐敗構造と関連させながら理解させる。	●	●				●	●			
⑥現在でも平成不況が続くなか、今後、日本あるいは生徒個人が歩むべき方向についてともに考える。〈道徳教育を実施〉	●	●				●	●			

